

事業評価シート(令和4年度事業評価用)

番号	0660080	001
----	---------	-----

【1.基本情報】

事業名	文化財説明板設置・修繕事業					
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部		担当課名	文化財保護課		
実施方法	直営	補助等の種類		実施主体	岐阜市	
開始・終了年度	昭和	38	年度～	年度	根拠法令・関連計画	—

【2.事業概要】

目的 (何のためか)	岐阜市内の文化財及び歴史的な場所についての周知と認識の高揚を図り、まちづくり、人づくりに活用する。					
内容 (手段・手法など)	岐阜市の文化財及び歴史的なゆかりのある場所について、広く一般に周知するため、説明板及び案内標識等の設置を行う。					
事業の 対象	何を	文化財説明板、文化財案内標識、歴史案内標識				
	誰に	岐阜市民				
	どのくらい	設置可能指定文化財で未設置説明板(5件)、新指定文化財のうち2基				
令和4年度からの変更点 (継続事業の場合)	—					

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和2年度決算額		令和3年度決算額		令和4年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	1,138	35	1,615	50	954	30
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	1,138	35	1,615	50	954	30

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		529	680	69
直接事業費の 主な内訳		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
項目	工事負担金	140	70	0
	修繕料	389	610	69
		0	0	0
減価償却費 【施設管理】 (C)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		0	0	0
計(D)=B+C		529	680	69

(3)総コスト

総事業費(E)=A+D	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
	1,667	2,295	1,023

【4.収入】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
収入内訳			
国庫支出金	0	440	33
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	0	0	0
計(F)	0	440	33

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
	1,667	1,855	990

【6.コストバランス】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業受益者	岐阜市民	岐阜市民	岐阜市民
受益者数	408,000	406,000	402,000
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	4	5	2

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))

活動指標名	新規設置数		単位	基
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	2		1	1
実績値	2		13	3

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)

成果指標名	岐阜市民であることに誇りを感じる割合		単位	%
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	55.0		55.0	55.0
実績値	53.2		53.2	53.5
達成状況	×(未達成)	×(未達成)	×(未達成)	

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 ①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) ③類似の事業はないか、あれば当該事業との統廃合はできるか ※【1】【2】から	高	現地を訪れた全ての人に当該文化財等の由来や歴史的意義を分かりやすく提供するための手段として必要である。 文化財普及啓発事業は教育委員会の所管事務(地方公共団体の長も担当できる)として法令で規定されている。 類似事業はない。
効率性 ①費用対効果 ②他に効率的な方法はないか (広域・民間活用・市民協働など) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	外国語表記も含めて表現や視覚効果等を考慮して設置しており、身近に歴史的価値を知っていただく手段として有効である。 設置・維持管理費用を確保する方策として、説明板への広告掲載などの検討も今後必要と考えている。
有効性 ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か ※【2】【7】から	中	本市に所在する文化財や歴史的に重要な意味を有する施設などの情報を市民や来訪者に分かりやすく提供する手段として非常に効果が大きい。
公平性 ・受益者及び受益者負担は適正か ※【2】【6】【7】から	高	市民や来訪者が等しく受益するものであり、公平である。
〔総合評価〕 ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持：様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	現状維持	既設の説明板は老朽化が進み、状況に応じて逐次改修や更新をしていく必要がある。また、文化財の新規指定により説明板新規設置対象が毎年度生じることから、状況に応じた計画的な設置・更新等を進めていく必要がある。 あわせて、外国語表記については、外国の方がすぐに理解できる高度な表記(翻訳)が求められており、今後、翻訳方法について費用対効果を鑑みながら再検討していく必要がある。

事業評価シート(令和4年度事業評価用)

番号 0660080 _ 002

【1.基本情報】

事業名	元町1丁目織田塚保存会運営補助金					
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部		担当課名	文化財保護課		
実施方法	補助等	補助等の種類	団体事業補助金	実施主体	元町1丁目織田塚保存会	
開始・終了年度	昭和	32年度～		年度	根拠法令・関連計画	岐阜市補助金等交付規則

【2.事業概要】

目的 (何のためか)	織田信長公の美濃進出の過程を伝える岐阜市史跡「織田塚」の保存と活用を促進し、地域の人づくり、まちづくりの活性化を支援する。					
内容 (手段・手法など)	元町1丁目織田塚保存会に対する事業費補助。会の主な活動内容は、市史跡「織田塚」(市所有地)の除草、樹木の剪定、清掃、献花等。					
事業の 対象	何を	補助金				
	誰に	元町1丁目織田塚保存会				
	どのくらい	団体総事業費(令和4年度 18,406円)の約50%				
令和4年度からの変更点 (継続事業の場合)	—					

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和2年度決算額		令和3年度決算額		令和4年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	33	1	32	1	32	1
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	33	1	32	1	32	1

(2)物にかかるコスト

		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
直接経費【直接事業費】(B)		10	10	10
直接事業費の主な内訳				
項目	補助金	10	10	10
		0	0	0
		0	0	0
減価償却費【施設管理】(C)		0	0	0
計(D)=B+C		10	10	10

(3)総コスト

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
総事業費(E)=A+D	43	42	42

【4.収入】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
収入内訳			
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	0	0	0
計(F)	0	0	0

【5.収支】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
市負担額一般財源(E-F)	43	42	42

【6.コストバランス】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業受益者	保存会会員	保存会会員	保存会会員
受益者数	7	7	7
受益者負担額(千円)	8	8	8
受益者負担率(%)	19.8%	19.9%	20.1%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	6,071	6,043	5,971

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))

活動指標名	補助金額		単位	千円
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	10	10	10	10
実績値	10	10	10	10

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)

成果指標名	団体総事業費に占める市補助金割合		単位	%
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	40	40	40	40
実績値	54	54	54	54
達成状況	×(未達成)	×(未達成)	×(未達成)	

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 ①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) ③類似の事業はないか、あれば当該事業との統廃合はできるか ※【1】【2】から	中	郷土の歴史資産・文化財の保存、継承は本来必要なものであり、市民参加による保存、継承活動ということで、市民・地域のニーズも高い。 市内の文化財保存に関する取組みを市民参加で行っている活動であり、市が支援すべき事業である。 類似事業はない。
効率性 ①費用対効果 ②他に効率的な方法はないか (広域・民間活用・市民協働など) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	史跡は公有地であり本来は市で管理すべきところである。 最小限の負担で貴重な文化財の保存・継承活動を支援するものであり、有効である。 市民が主体的に活動しており、市民協働を有効に活用している。
有効性 ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込みか ※【2】【7】から	中	市民主体の活動そのものが、歴史資産の保存、継承、活用につながっているため、支援策として非常に有効である。
公平性 ・受益者及び受益者負担は適正か ※【2】【6】【7】から	中	文化財の保存・継承・活用等に資する事業であり、特定者に受益させるものではない。
〔総合評価〕 ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持：様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	現状維持	市内に278件ある文化財(令和元年時点)を含め、補助対象者を非公募としながら、当該団体をはじめ特定の者に継続的に補助することは、公平性の観点から疑問があると令和2年度の包括外部監査において指摘を受けた。 補助金交付の公正・公平を確保するため、令和5年度から、文化財に関する補助とそれ以外の歴史資産に関する補助に補助要綱を分けて整理し、団体補助から事業補助に切り替えて補助対象経費を厳正に審査することとした。また、岐阜市HP上に補助要綱を公開し広く応募を受け付ける予定。

事業評価シート(令和4年度事業評価用)

番号	0660080	__ 003
----	---------	--------

【1.基本情報】

事業名	中将姫誓願桜保存会事業補助金					
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部		担当課名	文化財保護課		
実施方法	補助等	補助等の種類	団体事業補助金	実施主体	中将姫誓願桜保存会	
開始・終了年度	昭和	62	年度～	年度	根拠法令・関連計画	岐阜市補助金等交付規則

【2.事業概要】

目的 (何のためか)	国指定天然記念物「中将姫誓願ザクラ」の保存と活用を促進し、地域の人づくり、まちづくりの活性化に寄与する。					
内容 (手段・手法など)	中将姫誓願桜保存会に対する事業費補助。会の主な活動内容は、観桜会の開催、除草や枝払い作業等。					
事業の 対象	何を	補助金				
	誰に	中将姫誓願桜保存会				
	どのくらい	団体総事業費(令和4年度 638,705円)の約6%				
令和4年度からの変更点 (継続事業の場合)	—					

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和2年度決算額		令和3年度決算額		令和4年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	33	1	32	1	32	1
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	33	1	32	1	32	1

(2)物にかかるコスト

		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
直接経費 【直接事業費】 (B)		40	40	40
直接事業費の 主な内訳		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
項目	補助金	40	40	40
		0	0	0
		0	0	0
減価償却費 【施設管理】 (C)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		0	0	0
計(D)=B+C		40	40	40

(3)総コスト

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
総事業費(E)=A+D	73	72	72

【4.収入】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
収入内訳	令和2年度決算額(千円)		
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	0	0	0
計(F)	0	0	0

【5.収支】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
市負担額一般 財源(E-F)	73	72	72

【6.コストバランス】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業受益者	保存会会員	保存会会員	保存会会員
受益者数	475	486	470
受益者負担額(千円)	475	486	470
受益者負担率(%)	655.2%	672.2%	654.6%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	153	149	153

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))

活動指標名	補助金額		単位	千円
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	40	40	40	
実績値	40	40	40	

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)

成果指標名	団体総事業費に占める市補助金割合		単位	%
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	5	5	5	
実績値	6	5	6	
達成状況	×(未達成)	○(達成)	×(未達成)	

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 ①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) ③類似の事業はないか、あれば当該事業との統廃合はできるか ※【1】【2】から	中	郷土の歴史資産・文化財の保存、継承は本来必要なものであり、市民参加による保存、継承活動ということで、市民・地域のニーズも高い。 市内の文化財保存に関する取組みを市民参加で行っている活動であり、市が支援すべき事業である。 類似事業はない。
効率性 ①費用対効果 ②他に効率的な方法はないか (広域・民間活用・市民協働など) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	最小限の負担で貴重な文化財の保存・継承活動を支援するものであり、有効である。 市民が主体的に活動しており、市民協働を有効に活用している。
有効性 ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か ※【2】【7】から	中	市民主体の活動そのものが、歴史資産の保存、継承、活用につながっているため、支援策として非常に有効である。 また、桜の開花時期には、各地から多くの来訪者があり、普及においても非常に有効である。
公平性 ・受益者及び受益者負担は適正か ※【2】【6】【7】から	中	文化財の保存・継承・活用等に資する事業であり、特定者に受益させるものではない。
〔総合評価〕 ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持：様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	現状維持	市内に278件ある文化財(令和元年時点)を含め、補助対象者を非公募としながら、当該団体をはじめ特定の者に継続的に補助することは、公平性の観点から疑問があると令和2年度の包括外部監査において指摘を受けた。 補助金交付の公正・公平を確保するため、令和5年度から、文化財に関する補助とそれ以外の歴史資産に関する補助に補助要綱を分けて整理し、団体補助から事業補助に切り替えて補助対象経費を厳正に審査することとした。また、岐阜市HP上に補助要綱を公開し広く応募を受け付ける予定。

事業評価シート(令和4年度事業評価用)

番号 0660080 _ 004

【1.基本情報】

事業名	中山道加納宿文化保存会運営補助金					
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部		担当課名	文化財保護課		
実施方法	補助等	補助等の種類	団体事業補助金	実施主体	中山道加納宿文化保存会	
開始・終了年度	昭和	54	年度～	年度	根拠法令・関連計画	岐阜市補助金等交付規則

【2.事業概要】

目的 (何のためか)	旧中山道とその宿場町であった加納宿にある歴史資産の保存と活用を促進し、地域の人づくり、まちづくりの活性化に寄与する。					
内容 (手段・手法など)	中山道加納宿文化保存会に対する事業費補助。会の主な活動内容は、会誌「中山道加納宿」の発行等。					
事業の 対象	何を	補助金				
	誰に	中山道加納宿文化保存会				
	どのくらい	団体総事業費(令和4年度 478,000円)の約16%				
令和4年度からの変更点 (継続事業の場合)	—					

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和2年度決算額		令和3年度決算額		令和4年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	33	1	32	1	32	1
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	33	1	32	1	32	1

(2)物にかかるコスト

		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
直接経費【直接事業費】(B)		80	80	80
直接事業費の主な内訳		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
項目	補助金	80	80	80
		0	0	0
		0	0	0
減価償却費【施設管理】(C)		0	0	0
計(D)=B+C		80	80	80

(3)総コスト

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
総事業費(E)=A+D	113	112	112

【4.収入】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
収入内訳	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	0	0	0
計(F)	0	0	0

【5.収支】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
市負担額一般財源(E-F)	113	112	112

【6.コストバランス】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業受益者	保存会会員	保存会会員	保存会会員
受益者数	249	200	200
受益者負担額(千円)	249	200	200
受益者負担率(%)	221.3%	178.1%	178.9%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	452	562	559

【7.指標】

アウトプット評価（資源投入(インプット)により産出した活動(サービス)

活動指標名	補助金額		単位	千円
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	80	80	80	80
実績値	80	80	80	80

アウトカム評価（アウトプットによりもたらされた成果）

成果指標名	団体総事業費に占める市補助金割合		単位	%
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	16	16	16	16
実績値	16	15	15	16
達成状況	○(達成)	○(達成)	○(達成)	

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 ①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) ③類似の事業はないか、あれば当該事業との統廃合はできるか ※【1】【2】から	中	郷土の歴史資産・文化財の保存、継承は本来必要なものであり、市民参加による保存、継承活動ということで、市民・地域のニーズも高い。 市内の歴史資産保存に関する取組みを市民参加で行っている活動であり、市が支援すべき事業である。 類似事業はない。
効率性 ①費用対効果 ②他に効率的な方法はないか (広域・民間活用・市民協働など) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	最小限の負担で貴重な歴史資産の保存・継承活動を支援するものであり、有効である。 市民が主体的に活動しており、市民協働を有効に活用している。
有効性 ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か ※【2】【7】から	中	市民主体の活動そのものが、歴史資産の保存、継承、活用につながっているため、支援策として非常に有効である。
公平性 ・受益者及び受益者負担は適正か ※【2】【6】【7】から	中	歴史資産の保存・継承・活用等に資する事業であり、特定者に受益させるものではない。
〔総合評価〕 ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持：様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	現状維持	市内に278件ある文化財(令和元年時点)を含め、補助対象者を非公募としながら、当該団体をはじめ特定の者に継続的に補助することは、公平性の観点から疑問があると令和2年度の包括外部監査において指摘を受けた。 補助金交付の公正・公平を確保するため、令和5年度から、文化財に関する補助とそれ以外の歴史資産に関する補助に補助要綱を分けて整理し、団体補助から事業補助に切り替えて補助対象経費を厳正に審査することとした。また、岐阜市HP上に補助要綱を公開し広く応募を受け付ける予定。

事業評価シート(令和4年度事業評価用)

番号 0660080 _ 005

【1.基本情報】

事業名	琴塚顕彰協会事業補助金					
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部		担当課名	文化財保護課		
実施方法	補助等	補助等の種類	団体事業補助金	実施主体	琴塚顕彰協会	
開始・終了年度	昭和	25	年度～	年度	根拠法令・関連計画	岐阜市補助金等交付規則

【2.事業概要】

目的 (何のためか)	国史跡「琴塚古墳」の保存と顕彰を促進し、地域の人づくり、まちづくりの活性化に寄与する。					
内容 (手段・手法など)	琴塚顕彰協会に対する事業費補助。会の主な活動内容は、琴塚古墳の除草・清掃・見廻り、琴塚顕彰祭の開催等。					
事業の 対象	何を	補助金				
	誰に	琴塚顕彰協会				
	どのくらい	団体総事業費(令和4年度 85,000円)の約47%				
令和4年度からの変更点 (継続事業の場合)	—					

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和2年度決算額		令和3年度決算額		令和4年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	33	1	32	1	32	1
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	33	1	32	1	32	1

(2)物にかかるコスト

		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
直接経費【直接事業費】(B)		40	40	40
直接事業費の主な内訳		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
項目	補助金	40	40	40
		0	0	0
		0	0	0
減価償却費【施設管理】(C)		0	0	0
計(D)=B+C		40	40	40

(3)総コスト

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
総事業費(E)=A+D	73	72	72

【4.収入】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
収入内訳	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	0	0	0
計(F)	0	0	0

【5.収支】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
市負担額一般財源(E-F)	73	72	72

【6.コストバランス】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業受益者	保存会会員	保存会会員	保存会会員
受益者数	338	348	348
受益者負担額(千円)	30	30	30
受益者負担率(%)	41.4%	41.5%	41.8%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	214	208	206

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))

活動指標名	補助金額		単位	千円
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	40	40	40	40
実績値	40	40	40	40

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)

成果指標名	団体総事業費に占める市補助金割合		単位	%
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	40	40	40	40
実績値	57	57	57	47
達成状況	×(未達成)	×(未達成)	×(未達成)	

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 ①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) ③類似の事業はないか、あれば当該事業との統廃合はできるか ※【1】【2】から	中	郷土の歴史資産・文化財の保存、継承は本来必要なものであり、市民参加による保存、継承活動ということで、市民・地域のニーズも高い。 市内の歴史資産保存に関する取組みを市民参加で行っている活動であり、市が支援すべき事業である。 類似事業はない。
効率性 ①費用対効果 ②他に効率的な方法はないか(広域・民間活用・市民協働など) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	史跡は公有地であり本来は市で管理すべきところである。最小限の負担で貴重な文化財の保存・継承活動を支援するものであり、有効である。 市民が主体的に活動しており、市民協働を有効に活用している。
有効性 ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か ※【2】【7】から	中	市民主体の活動そのものが、歴史資産の保存、継承、活用につながっているため、支援策として非常に有効である。
公平性 ・受益者及び受益者負担は適正か ※【2】【6】【7】から	中	歴史資産の保存・継承・活用等に資する事業であり、特定者に受益させるものではない。
〔総合評価〕 ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持：様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	現状維持	市内に278件ある文化財(令和元年時点)を含め、補助対象者を非公募としながら、当該団体をはじめ特定の者に継続的に補助することは、公平性の観点から疑問があると令和2年度の包括外部監査において指摘を受けた。 補助金交付の公正・公平を確保するため、令和5年度から、文化財に関する補助とそれ以外の歴史資産に関する補助に補助要綱を分けて整理し、団体補助から事業補助に切り替えて補助対象経費を厳正に審査することとした。また、岐阜市HP上に補助要綱を公開し広く応募を受け付ける予定。

事業評価シート(令和4年度事業評価用)

番号 0660080 _ 006

【1.基本情報】

事業名	長良川流域の文化的景観保存調査事業					
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部		担当課名	文化財保護課		
実施方法	直営	補助等の種類		実施主体	岐阜市	
開始・終了年度	平成	20	年度～	年度	根拠法令・関連計画	文化財保護法、景観計画、歴史的風致維持向上計画、重要文化的景観 長良川中流域における岐阜の文化的景観整備計画

【2.事業概要】

目的 (何のためか)	ぎふ長良川の鵜飼をはじめとする豊かな漁業文化の舞台となってきた流域や道三・信長の都市計画を伝える旧城下町の文化的景観の価値を明らかにし、良好な景観の継承と望ましい景観形成の仕組みを作るため。	
内容 (手段・手法など)	①文化的景観保存調査 ②文化的景観保存計画の策定 ③文化的景観選定の申出・選定 ④修理・整備・復旧防災等の事業	
事業の 対象	何を	国重要文化的景観選定による文化財を活かしたまちづくりの推進
	誰に	岐阜市民
	どのくらい	重要文化的景観による文化財として価値づけ、国の支援
令和4年度からの変更点 (継続事業の場合)	重要な構成要素である「金鳳山正法寺」について、これまでの調査成果と今後の保存整備に向けた基本方針を定めた「金鳳山正法寺大仏殿及び大仏整備基本計画」を策定した。	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和2年度決算額		令和3年度決算額		令和4年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	6,500	200	6,460	200	6,360	200
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	6,500	200	6,460	200	6,360	200

(2)物にかかるコスト

		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
直接経費【直接事業費】(B)		4,676	1,548	4,859
直接事業費の主な内訳		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
項目	報償費	91	819	733
	印刷製本費	957	0	2,475
	委託料	3,198	286	902
減価償却費【施設管理】(C)		0	0	0
計(D)=B+C		4,676	1,548	4,859

(3)総コスト

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
総事業費(E)=A+D	11,176	8,008	11,219

【4.収入】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
収入内訳	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
国庫支出金	1,883	0	2,132
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	0	0	0
計(F)	1,883	0	2,132

【5.収支】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
市負担額一般財源(E-F)	9,293	8,008	9,087

【6.コストバランス】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業受益者	岐阜市民	岐阜市民	岐阜市民
受益者数	408,000	406,000	402,000
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	23	20	23

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))

活動指標名	長良川流域の文化的景観検討委員会開催数		単位	回
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	2		2	2
実績値	1		1	1

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)

成果指標名	伝統的家屋等詳細調査件数		単位	回
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	1		1	1
実績値	1		0	0
達成状況	○(達成)	×(未達成)	×(未達成)	

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 ①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) ③類似の事業はないか、あれば当該事業との統廃合はできるか ※【1】【2】から	高	本市の歴史・観光資源であり、市民共通の財産として最も重要な金華山・長良川流域の景観形成や継承を図る上で必要不可欠である。 景観を守っていくためには行政だけでなく、そこに住む住民の理解も必要であり、事業推進にあたり常に市民と協働で実施することを意識していく必要がある。 類似の事業はない。
効率性 ①費用対効果 ②他に効率的な方法はないか (広域・民間活用・市民協働など) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	将来的な本市の歴史的価値や観光資源としての価値向上に大きく寄与するものであり、効果は非常に大きい。 周辺住民の理解も含めて、事業推進にあたっては市民協働を意識し推進していく。
有効性 ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か ※【2】【7】から	高	日本遺産の認定にあたって、文化的景観で得られた成果が大きく貢献した。
公平性 ・受益者及び受益者負担は適正か ※【2】【6】【7】から	高	当事業の成果は、本市の財産として市民が等しく享受するものである。
〔総合評価〕 ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持：様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	現状維持	景観計画や平成25年4月に認定された歴史的風致維持向上計画等の関係法令や計画との整合性を図る必要があることから担当課の裁量のみでの拡充等は難しいものの、庁内関係部署や関係機関と調整を図りつつ事業を継続していく。

事業評価シート(令和4年度事業評価用)

番号	0660080	__ 007
----	---------	--------

【1.基本情報】

事業名	原三溪顕彰事業補助金					
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部		担当課名	文化財保護課		
実施方法	補助等	補助等の種類	団体事業補助金	実施主体	原三溪・柳津文化の里構想実行委員会	
開始・終了年度	平成 24 年度 ~	年度	根拠法令・関連計画	岐阜市補助金等交付規則		

【2.事業概要】

目的 (何のためか)	原三溪の功績や遺徳を顕彰し、柳津地域周辺のまちづくりのほか、市民の地域に対する理解と郷土愛の醸成に寄与することを目的とする。					
内容 (手段・手法など)	原三溪・柳津文化の里構想実行委員会に対する事業費補助。会の主な活動内容は、原三溪の業績の顕彰活動を行う、市民を対象とした原三溪にかかわる見学会や研修会を行う、関係機関、団体と協力して原三溪顕彰に関わる諸事業を行う等。					
事業の対象	何を	補助金				
	誰に	原三溪・柳津文化の里構想実行委員会				
	どのくらい	団体総事業費(令和4年度 210,000円)の約38%				
令和4年度からの変更点 (継続事業の場合)	—					

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和2年度決算額		令和3年度決算額		令和4年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	33	1	32	1	32	1
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	33	1	32	1	32	1

(2)物にかかるコスト

		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
直接経費【直接事業費】(B)		80	80	80
直接事業費の主な内訳		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
項目	補助金	80	80	80
		0	0	0
		0	0	0
減価償却費【施設管理】(C)		0	0	0
計(D)=B+C		80	80	80

(3)総コスト

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
総事業費(E)=A+D	113	112	112

【4.収入】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
収入内訳	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	0	0	0
計(F)	0	0	0

【5.収支】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
市負担額一般財源(E-F)	113	112	112

【6.コストバランス】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業受益者	保存会会員	保存会会員	保存会会員
受益者数	68	68	80
受益者負担額(千円)	136	136	160
受益者負担率(%)	120.9%	121.1%	143.1%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	1,654	1,651	1,398

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))

活動指標名	補助金額		単位	千円
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	80	80	80	
実績値	80	80	80	

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)

成果指標名	団体総事業費に占める市補助金割合		単位	%
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	30	30	30	
実績値	26	22	38	
達成状況	○(達成)	○(達成)	×(未達成)	

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 ①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) ③類似の事業はないか、あれば当該事業との統廃合はできるか ※【1】【2】から	中	郷土の歴史資産・文化財の保存、継承は本来必要なものであり、市民参加による保存、継承活動ということで、市民・地域のニーズも高い。 市内の歴史資産保存に関する取組みを市民参加で行っている活動であり、市が支援すべき事業である。 類似事業はない。
効率性 ①費用対効果 ②他に効率的な方法はないか(広域・民間活用・市民協働など) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	最小限の負担で貴重な歴史資産の保存・継承活動を支援するものであり、有効である。 市民が主体的に活動しており、市民協働を有効に活用している。
有効性 ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込みか ※【2】【7】から	中	地元の小中学校の総合学習等にも組み込まれる等、市民主体の活動そのものが、歴史資産の保存、継承、活用につながっているため、支援策として非常に有効である。
公平性 ・受益者及び受益者負担は適正か ※【2】【6】【7】から	中	歴史資産の保存・継承・活用等に資する事業であり、特定者に受益させるものではない。
〔総合評価〕 ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持：様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	現状維持	市内に278件ある文化財(令和元年時点)を含め、補助対象者を非公募としながら、当該団体をはじめ特定の者に継続的に補助することは、公平性の観点から疑問があると令和2年度の包括外部監査において指摘を受けた。 補助金交付の公正・公平を確保するため、令和5年度から、文化財に関する補助とそれ以外の歴史資産に関する補助に補助要綱を分けて整理し、団体補助から事業補助に切り替えて補助対象経費を厳正に審査することとした。また、岐阜市HP上に補助要綱を公開し広く応募を受け付ける予定。

事業評価シート(令和4年度事業評価用)

番号 0660080 _ 008

【1.基本情報】

事業名	史跡加納城跡整備事業					
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部		担当課名	文化財保護課		
実施方法	直営	補助等の種類		実施主体	岐阜市	
開始・終了年度	平成	12	年度～	年度	根拠法令・関連計画	文化財保護法

【2.事業概要】

目的 (何のためか)	史跡や文化財を活かしたまちづくりを推進するために、市内の歴史遺産を調査・整備し、適切な維持管理と活用を行う必要がある。					
内容 (手段・手法など)	①加納城跡整備基本構想、史料調査、保存活用計画 ②本丸内発掘調査、調査報告書作成 ③本丸北東側堀跡内民有地買い上げ					
事業の 対象	何を	加納城跡の整備による「歴史遺産を活かしたまちづくり」の推進				
	誰に	岐阜市民、全国の歴史ファン、観光客				
	どのくらい	岐阜市民及び歴史ファン、観光客にサービスを提供				
令和4年度からの変更点 (継続事業の場合)	—					

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和2年度決算額		令和3年度決算額		令和4年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	1,625	50	1,625	50	1,590	50
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	1,625	50	1,625	50	1,590	50

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		1,658	1,604	3,085
直接事業費の主な内訳		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
項目	委託料	1,428	1,078	1,969
		0	0	0
		0	0	0
減価償却費【施設管理】(C)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		0	0	0
計(D)=B+C		1,658	1,604	3,085

(3)総コスト

総事業費(E)=A+D	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
	3,283	3,229	4,675

【4.収入】

収入内訳	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
国庫支出金	950	1,100	1,500
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	0	0	0
計(F)	950	1,100	1,500

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
	2,333	2,129	3,175

【6.コストバランス】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業受益者	市民、観光客	市民、観光客	市民、観光客
受益者数	220,000	220,000	220,000
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	11	10	0

【7.指標】

アウトプット評価（資源投入(インプット)により産出した活動(サービス)

活動指標名	調査面積		単位	m ²
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	200	200	200	
実績値	165	209	137	

アウトカム評価（アウトプットによりもたらされた成果）

成果指標名	岐阜市民であることに誇りを感じる割合		単位	%
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	53	53	53	
実績値	53.2	53.2	53.5	
達成状況	○(達成)	○(達成)	○(達成)	

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 ①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) ③類似の事業はないか、あれば当該事業との統廃合はできるか ※【1】【2】から	高	岐阜市の貴重な歴史文化資源の一つとして全容を明らかにし、今後の保存及び活用に資するとともに、本市の独自性を全国にアピールしていく上で必要不可欠である。 当該史跡の管理団体である岐阜市が主体的に取り組む必要がある。 当該史跡について類似の事業は実施されていない。
効率性 ①費用対効果 ②他に効率的な方法はないか (広域・民間活用・市民協働など) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	岐阜城に次ぐ歴史資産として、将来的な歴史文化的価値の明確化や新たな観光資源としての活用につながるものであり、非常に有為である。 史跡の調査、整備、活用については管理団体である岐阜市が主体的に取り組む必要がある。
有効性 ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か ※【2】【7】から	高	石垣の測量により、現状把握及び将来の史跡整備に必要な基礎資料が得られている。
公平性 ・受益者及び受益者負担は適正か ※【2】【6】【7】から	高	本市の歴史遺産として市民が等しく受益するものであり適正である。
〔総合評価〕 ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持：様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	現状維持	国史跡加納城跡として今後保存管理計画や整備計画等を策定し、体系的な保存・活用の推進が求められている。しかし、文化財保護行政においては、他に解決すべき課題が多く存在しており、全体の進捗状況を見ながらバランスよく事業を進めていく必要がある。 維持管理については、関係部局と協議して効率のよい体制を構築していく。

事業評価シート(令和4年度事業評価用)

番号 0660080 _ 009

【1.基本情報】

事業名	史跡岐阜城跡整備事業					
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部		担当課名	文化財保護課		
実施方法	委託(出資団体)	補助等の種類		実施主体	(公財)岐阜市教育文化振興事業団	
開始・終了年度	平成	26	年度～	年度	根拠法令・関連計画	文化財保護法

【2.事業概要】

目的 (何のためか)	国史跡岐阜城跡の調査や整備、活用を行い、岐阜市の観光振興、地域活性化に資する。史跡の管理団体として、適切な維持管理と整備活用を行う必要がある。					
内容 (手段・手法など)	山麓居館の整備及び山上部の発掘調査。整備計画等に基づく石垣等の維持管理、看板設置及び修繕。					
事業の 対象	何を	史跡岐阜城跡の保存活用による「文化財を活かしたまちづくり」の推進				
	誰に	岐阜市民、全国の歴史ファン、観光客				
	どのくらい	約40万人の市民及び歴史ファン、観光客にサービスを提供				
令和4年度からの変更点 (継続事業の場合)	令和3年度の7区・8区に加えて、9区・10区で新たに発掘調査を実施した。					

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和2年度決算額		令和3年度決算額		令和4年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	22,750	700	22,750	700	22,260	700
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	22,750	700	22,750	700	22,260	700

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		38,145	40,672	39,971
直接事業費の主な内訳		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
項目	委託料	30,320	29,517	33,961
	修繕料	39	0	84
	印刷製本費	0	0	2,310
減価償却費【施設管理】(C)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		0	0	0
計(D)=B+C		38,145	40,672	39,971

(3)総コスト

総事業費(E)=A+D	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
	60,895	63,422	62,231

【4.収入】

収入内訳	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
国庫支出金	2,353	2,305	2,231
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	0	0	0
計(F)	2,353	2,305	2,231

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
	58,542	61,117	60,000

【6.コストバランス】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業受益者	市民、観光客	市民、観光客	市民、観光客
受益者数	220,000	220,000	220,000
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	266	278	273

【7.指標】

アウトプット評価（資源投入(インプット)により産出した活動(サービス)

活動指標名	委員会会議回数		単位	回
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	3		3	3
実績値	-		2	3

アウトカム評価（アウトプットによりもたらされた成果）

成果指標名	発掘調査現地公開参加者数		単位	人
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	800		800	800
実績値	-		-	-
達成状況	—	—	—	

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 ①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) ③類似の事業はないか、あれば当該事業との統廃合はできるか ※【1】【2】から	高	市民や歴史ファンへの関心度が高く、全国に岐阜市をPRするために欠かせない。 維持管理については金華山国有林の管理者である林野庁も実施しているが、史跡の調査、整備、活用については管理団体である岐阜市が主体的に取り組む必要がある。 当該史跡について類似の事業は実施されていない。
効率性 ①費用対効果 ②他に効率的な方法はないか(広域・民間活用・市民協働など) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	新聞・テレビ等の報道による宣伝効果は非常に高い。 史跡の管理団体である岐阜市が主体的に取り組む必要がある。
有効性 ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込みか ※【2】【7】から	高	岐阜市の歴史文化を明らかにし、都市の独自性を全国にアピールしていく上で欠かせない。
公平性 ・受益者及び受益者負担は適正か ※【2】【6】【7】から	高	当事業による成果は、本市の歴史遺産として市民が等しく受益するものであり適正である。
〔総合評価〕 ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持：様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	現状維持	岐阜市を全国にPRするうえで欠かせない事業と考える。引き続き山上部の発掘調査を実施するとともに、整備基本計画に基づいた整備を行う。山上部の発掘調査における市民・観光客への関心は非常に高い。マスコミ等への情報提供、広報広聴課等との連携により情報発信の質を高めていく。

事業評価シート(令和4年度事業評価用)

番号 0660080 _ 010

【1.基本情報】

事業名	信長学フォーラム					
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部		担当課名	文化財保護課		
実施方法	直営	補助等の種類		実施主体	岐阜市	
開始・終了年度	平成	20	年度～	年度	根拠法令・関連計画	—

【2.事業概要】

目的 (何のためか)	発掘調査事業及び史跡整備等のハード事業に対するソフト事業として、全国の信長公ファンを対象にシンポジウムを実施し、道三公・信長公のまち岐阜としての情報発信を行う。					
内容 (手段・手法など)	シンポジウム『信長学フォーラム』開催					
事業の 対象	何を	信長公居館発掘調査・活用による「文化財を活かしたまちづくり」の推進				
	誰に	岐阜市民、全国の歴史ファン、観光客				
	どのくらい	岐阜市民及び歴史ファン、観光客にサービスを提供				
令和4年度からの変更点 (継続事業の場合)	—					

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和2年度決算額		令和3年度決算額		令和4年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	2,600	80	2,584	80	2,544	80
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	2,600	80	2,584	80	2,544	80

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		2,278	1,894	1,983
直接事業費の 主な内訳		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
項目	報償費	273	394	370
	印刷製本費	287	0	0
	委託料	1,496	1,265	1,386
	会場使用料	219	221	220
減価償却費 【施設管理】 (C)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		0	0	0
計(D)=B+C		2,278	1,894	1,983

(3)総コスト

総事業費(E)=A+D	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
	4,878	4,478	4,527

【4.収入】

収入内訳	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	0	0	0
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
	4,878	4,478	4,527

【6.コストバランス】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業受益者	岐阜市民、信長ファン	岐阜市民、信長ファン	岐阜市民、信長ファン
受益者数	250	150	250
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	19,512	29,853	18,108

【7.指標】

アウトプット評価（資源投入(インプット)により産出した活動(サービス)

活動指標名	参加者数		単位	人
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	250	150	250	
実績値	153	152	190	

アウトカム評価（アウトプットによりもたらされた成果）

成果指標名	満足度(参加者アンケート)		単位	%
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	95	95	95	
実績値	89	82	97	
達成状況	×(未達成)	×(未達成)	○(達成)	

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 ①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) ③類似の事業はないか、あれば当該事業との 統廃合はできるか ※【1】【2】から	高	毎回定員を超える申し込みがあり、ニーズが高い。 道三公・信長公のまち岐阜をPRする上で直接実施する必要がある。 無し
効率性 ①費用対効果 ②他に効率的な方法はないか (広域・民間活用・市民協働など) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	岐阜市の独自性を全国にアピールする効果が高い。 行政だけでなく、民間団体と協働して、道三公・信長公のまち岐阜をPRしていくことで、さらに都市ブランドを構築していくことができる。
有効性 ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か ※【2】【7】から	高	発掘事業とあわせて、本市の歴史的成り立ちを市民が学ぶ機会として、また、都市の独自性を全国にアピールしていく上で有為である。
公平性 ・受益者及び受益者負担は適正か ※【2】【6】【7】から	高	信長公の事績を中心に本市の歴史資産の重要性を広く市民と共有するもので、市民が公平に受益するものである。
〔総合評価〕 ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持： 様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	現状維持	「信長学」、「道三公・信長公のまち岐阜」を全国にPRするために、行政だけでなく民間団体と協働して盛り上げていく必要がある。

事業評価シート(令和4年度事業評価用)

番号 0660080 _ 011

【1.基本情報】

事業名	信長塾					
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部		担当課名	文化財保護課		
実施方法	直営	補助等の種類		実施主体	岐阜市	
開始・終了年度	平成	21	年度～	年度	根拠法令・関連計画	—

【2.事業概要】

目的 (何のためか)	発掘調査事業及び史跡整備等のハード事業に対するソフト事業として、信長公とその時代に関する歴史講座を開催する。					
内容 (手段・手法など)	講座「信長塾」開催					
事業の 対象	何を	信長公居館発掘調査・活用による「文化財を活かしたまちづくり」の推進				
	誰に	岐阜市民、全国の歴史ファン、観光客				
	どのくらい	約40万市民及び歴史ファン、観光客にサービスを提供				
令和4年度からの変更点 (継続事業の場合)	令和4年度「信長塾オンライン」(連続5回講座)をオンライン開催 ※オンライン受講&会場でのオンライン受講を実施					

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和2年度決算額		令和3年度決算額		令和4年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	0	0	646	20	636	20
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	0	0	646	20	636	20

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		0	175	253
直接事業費の 主な内訳		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
項目	報償費	0	140	210
	旅費	0	20	4
	会場使用料	0	15	39
減価償却費 【施設管理】 (C)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		0	0	0
計(D)=B+C		0	175	253

(3)総コスト

総事業費(E)=A+D	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
	0	821	889

【4.収入】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
収入内訳			
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	0	0	0
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
	0	821	889

【6.コストバランス】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業受益者	岐阜市民、信長ファン	岐阜市民、信長ファン	岐阜市民、信長ファン
受益者数	200	200	200
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	0	4,105	4,445

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))

活動指標名	参加者数(延べ人数)		単位	人
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	0	950	950	
実績値	0	412	609	

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)

成果指標名	満足度(参加者アンケート)		単位	%
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	-	90	90	
実績値	-	94	91	
達成状況	—	○(達成)	○(達成)	

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 ①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) ③類似の事業はないか、あれば当該事業との統廃合はできるか ※【1】【2】から	高	毎回定員を超える申し込みがあり、ニーズは非常に高い。 信長公を通じた本市の歴史的成り立ちや実績を発掘調査成果なども踏まえて市民と共有し、さらに、道三公・信長公のまち岐阜として全国に発信し、本市の観光振興にも資するための事業として市が直接実施する必要がある。 無し
効率性 ①費用対効果 ②他に効率的な方法はないか (広域・民間活用・市民協働など) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	信長公を核とする戦国期における本市の歴史的重要性や独自性を学び、発信する機会として効果が高い。 行政だけでなく、民間団体と協働して「道三公・信長公のまち岐阜」をPRしていくことで、さらに都市ブランドを構築していくことができる。
有効性 ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か ※【2】【7】から	高	本市における信長公の歴史的重要性を広く市民が学ぶとともに、道三公・信長公のまち岐阜としての本市の独自性をアピールすることに寄与している。
公平性 ・受益者及び受益者負担は適正か ※【2】【6】【7】から	高	本市の歴史遺産を学ぶ機会として市民が等しく受益するものであり適正である。
〔総合評価〕 ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持： 様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	現状維持	「信長公」「道三公・信長公のまち岐阜」を全国にPRするために、講座を通じてふるさとの歴史を市民が学び、来訪者に還元できるように人材を育成する必要がある。

事業評価シート(令和4年度事業評価用)

番号 0660080 _ 012

【1.基本情報】

事業名	長良川鵜飼文化未来継承事業 (旧・鵜飼の総合的調査事業)					
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部		担当課名	文化財保護課		
実施方法	直営	補助等の種類		実施主体	岐阜市 他	
開始・終了年度	平成	17	年度～	年度	根拠法令・関連計画 無形文化遺産保護条約、文化財保護法、重要無形民俗文化財保存活用計画 等	

【2.事業概要】

目的 (何のためか)	長良川の鵜飼文化の価値や魅力を高め、守り、未来へと継承していく。そのための手段として、ユネスコ無形文化遺産登録を目指す取組をオール岐阜で推進する。					
内容 (手段・手法など)	4つの細事業である【Ⅰ】ユネスコ申請準備、【Ⅱ】魅力発信、【Ⅲ】保存活用、【Ⅳ】総合調査を一体的に取り組み、SDGs未来都市・岐阜市が推進している持続可能な都市づくりをさらに加速させる。					
事業の 対象	何を	鵜飼文化の価値や魅力の顕在化、継承及びそれを活かした観光まちづくりの推進				
	誰に	鵜飼文化を支えるコミュニティ(岐阜市民 約40万3千人、鵜匠家 6軒、職人 数名(近年減少)、観光業関係者 多数、地方自治体 岐阜県・関市・日立市等、国機関 文化庁・宮内庁等、学識経験者 多数、NPO 多数)				
	どのくらい	無形文化遺産登録の達成による市民のシビックプライド向上及び「世界のGIFU」、「世界のUKAI」としての観光ブランドの確立				
令和4年度からの変更点 (継続事業の場合)	—					

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和2年度決算額		令和3年度決算額		令和4年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	6,500	200	6,460	200	6,360	200
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	6,500	200	6,460	200	6,360	200

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		2,653	66,690	74,159
直接事業費の主な内訳		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
項目	補助金	372	180	0
	委託料	0	0	0
	負担金補助及び交付金	971	66,260	67,450
減価償却費【施設管理】(C)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		0	0	0
計(D)=B+C		2,653	66,690	74,159

(3)総コスト

総事業費(E)=A+D	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
	9,153	73,150	80,519

【4.収入】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
収入内訳			
国庫支出金	0	0	2,419
県支出金	900	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	483	0	593
計(F)	1,383	0	3,012

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
	7,770	73,150	77,507

【6.コストバランス】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業受益者	岐阜市民、鶺鴒観覧者等	岐阜市民、鶺鴒観覧者等	岐阜市民、鶺鴒観覧者等
受益者数	220,000	220,000	220,000
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト(円、一般財源ベース)	35	333	352

【7.指標】

アウトプット評価(資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))

活動指標名	委員会の開催回数		単位	回
	令和2年度	令和3年度		令和4年度
目標値	2		2	2
実績値	2		1	2

アウトカム評価(アウトプットによりもたらされた成果)

成果指標名	「岐阜市の魅力は何か」という質問に対する「鶺鴒」という回答の割合・順位		単位	%・順位
	令和2年度	令和3年度		令和4年度
目標値	58.0%・3位	58.0%・3位		58.0%・3位
実績値	55.0%・4位	55.0%・4位		55.2%・4位
達成状況	×(未達成)	×(未達成)		×(未達成)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 ①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) ③類似の事業はないか、あれば当該事業との統廃合はできるか ※【1】【2】から	高	鶺鴒文化は市民にとって魅力ある存在であり(R4市民意識調査第4位(55.2%))、さらなるブランディングは社会のニーズに合っている。コロナ禍を乗り越えるべく新たな時代を生きる市民にとって、無形文化遺産登録という夢は、今こそ希望の光となりうる。 鶺鴒文化の価値や魅力を高め、守り、未来へと継承していくには、鶺鴒匠たち継承者、行政、市民、応援団をはじめとする各種団体など、オール岐阜で取り組む必要がある。その中でも、市がリーダーシップをとり、事業の先導役を担う必要がある。 類似事業はない。
効率性 ①費用対効果 ②他に効率的な方法はないか(広域・民間活用・市民協働など) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	鶺鴒文化は市にとって重要な観光資源であるとともに、1,300年以上の歴史と伝統を有する文化遺産である。本物志向の観光まちづくりを推進していく上で、鶺鴒文化のさらなるブランディングを行い、国内外にアピールしていく効果は高い。 鶺鴒文化の確実な保存・継承に直接的な効果をもたらす取組が急務であるが、鶺鴒文化を支える技術の担い手は県内各地に分布しており、鶺鴒文化に関連する河川や山林なども複数の市町にまたがるため、広域的な事業展開が求められる。
有効性 ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か ※【2】【7】から	中	【IV】成果として、平成27年に「長良川の鶺鴒漁の技術」が国重要無形民俗文化財に指定、「『信長公のおもてなし』が息づく戦国城下町・岐阜」が日本遺産に認定、「清流長良川の鮎〜『里川』における人と鮎のつながり〜」が世界農業遺産に認定された。 【III】成果として、令和3年7月に保存活用計画が民俗文化財としては日本で初めて文化庁長官の認定を受けた。また、保存活用計画に基づき、岐阜市長良川鶺鴒保存会の体制を整備し、鶺鴒舟の造船・舟大工育成を推進。完成した鶺鴒舟を鶺鴒匠が使用している。
公平性 ・受益者及び受益者負担は適正か ※【2】【6】【7】から	中	文化財は、わが国の歴史、文化等の正しい理解のため欠くことのできない国民的財産である。国重要無形民俗文化財「長良川の鶺鴒漁の技術」をはじめ、様々な文化財で構成される長良川鶺鴒文化を未来へと継承する本事業において、その利益は国民、特に市民が等しく享受すべきものである。
〔総合評価〕 ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持：様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	現状維持	従来「鶺鴒の総合的調査事業」として【IV】総合調査を重視してきた本事業だが、令和2年度に事業全体を大きく見直し、「長良川鶺鴒文化未来継承事業」へと改善。鶺鴒文化の未来への継承を真の「目的」とし、ユネスコ無形文化遺産登録を目指す取組を「手段」として位置付けた。事業内容も、【II】魅力発信や【III】保存活用など、多岐にわたる事業が展開できるように再構築。当面は現状維持としつつも、常に課題意識を持ち、必要に応じて事業の改善を進めていく。 ※令和3年度より観光事業特別会計(鶺鴒報償費)から66,000,000円組み換え

事業評価シート(令和4年度事業評価用)

番号 0660080 __ 013

【1.基本情報】

事業名	日本遺産推進事業					
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部		担当課名	文化財保護課		
実施方法	補助等	補助等の種類	その他負担金	実施主体	ぎふ歴史遺産活用推進協議会	
開始・終了年度	平成	27	年度～	年度	根拠法令・関連計画	—

【2.事業概要】

目的 (何のためか)	平成27年度に日本遺産第1号に認定された「信長公のおもてなしが息づく戦国城下町・岐阜」を全国にPRする。					
内容 (手段・手法など)	情報発信、日本遺産ガイド育成、再現映像作成、日本遺産サミットにおけるPR事業等					
事業の 対象	何を	日本遺産による岐阜市の認知度向上、ブランド化、地域の誇りの醸成				
	誰に	岐阜市民、全国の歴史ファン、観光客				
	どのくらい	岐阜市民及び歴史ファン、観光客にサービスを提供				
令和4年度からの変更点 (継続事業の場合)	—					

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和2年度決算額		令和3年度決算額		令和4年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	1,300	40	1,292	40	1,272	40
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	1,300	40	1,292	40	1,272	40

(2)物にかかるコスト

		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
項目	直接経費 【直接事業費】 (B)	5,154	6,117	15,133
	直接事業費の 主な内訳			
	負担金	5,154	6,117	15,133
		0	0	0
		0	0	0
減価償却費 【施設管理】 (C)	令和2年度決算額(千円)	0	0	0
	令和3年度決算額(千円)	0	0	0
計(D)=B+C		5,154	6,117	15,133

(3)総コスト

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
総事業費(E)=A+D	6,454	7,409	16,405

【4.収入】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
収入内訳			
国庫支出金	4,146	4,086	8,368
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	0	0	0
計(F)	4,146	4,086	8,368

【5.収支】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
市負担額一般 財源(E-F)	2,308	3,323	8,037

【6.コストバランス】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業受益者	岐阜市民、歴史ファン	岐阜市民、歴史ファン	岐阜市民、歴史ファン
受益者数	10,000	10,000	10,000
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	231	332	804

【7.指標】

アウトプット評価（資源投入(インプット)により産出した活動(サービス)

活動指標名	ツアーガイド育成数		単位	人
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	20	20	20	30
実績値	30	18	18	41

アウトカム評価（アウトプットによりもたらされた成果）

成果指標名	満足度(ツアー参加者アンケート)		単位	%
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	90	90	90	90
実績値	92	91	91	90
達成状況	○(達成)	○(達成)	○(達成)	

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 ①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) ③類似の事業はないか、あれば当該事業との統廃合はできるか ※【1】【2】から	高	国が認定する日本遺産をPRする事業であり、観光誘客にも効果が高い。 民間団体も含めた協議会で実施しているが、文化庁とも連携する必要がある、道三公・信長公のまちとして全国に発信し、本市の観光振興にも資するための事業として、市が関与する必要がある。 無し
効率性 ①費用対効果 ②他に効率的な方法はないか (広域・民間活用・市民協働など) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	道三公や信長公を活かしたまちづくりや観光誘客を行う上で、効果が高い。 協議会だけでなく、民間団体と協働して道三公・信長公のまち岐阜をPRしていくことで、さらに都市ブランドを構築していくことができる。
有効性 ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か ※【2】【7】から	高	全国に道三公・信長公のまちとしての本市の独自性をアピールすることに寄与している。
公平性 ・受益者及び受益者負担は適正か ※【2】【6】【7】から	高	本市の魅力を訪来者が等しく受益するものであり適正である。
〔総合評価〕 ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持：様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	拡充	「日本遺産」そのものの知名度を向上させることが必要であり、国や他の認定地域と連携して事業を進める必要がある。 道三公・信長公のまち岐阜を全国にPRするために、岐阜市観光マーケティング調査事業等を通じて、日本遺産を活用した岐阜市観光の情報発信を進める必要がある。 日本遺産の補助金は平成29年で終了。令和2年度から3か年計画にて、地域文化財総合活用推進事業(地域計画等)の補助金制度を活用。事業内容について随時検証していく必要がある。

事業評価シート(令和4年度事業評価用)

番号 0660080 _ 014

【1.基本情報】

事業名	岐阜まつり記録保存調査事業					
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部		担当課名	文化財保護課		
実施方法	直営	補助等の種類		実施主体	岐阜市	
開始・終了年度	令和 2 年度	～	令和 7 年度	根拠法令・関連計画	岐阜市文化財保護条例第1条、第22条	

【2.事業概要】

目的 (何のためか)	地域の伝統文化である岐阜まつりの調査を実施し、調査報告書の刊行並びに映像作成を通じて、文化財的価値を一層明確化し、県の指定文化財を目指す。					
内容 (手段・手法など)	調査委員会を組織し、委員会の指導のもと祭礼に関わる各分野の専門家(民俗、文献、建築、金工等)に依頼し、記録保存調査を行うとともに、山車、神輿等の実測、撮影を行い、『(仮称)岐阜まつり総合調査報告書』にまとめ刊行する。					
事業の 対象	何を	市無形民俗文化財を活かした観光・交流の活性化				
	誰に	観客				
	どのくらい	県無形民俗文化財へのランクアップと観光資源としての活用				
令和4年度からの変更点 (継続事業の場合)	—					

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和2年度決算額		令和3年度決算額		令和4年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	650	20	678	21	636	20
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	650	20	678	21	636	20

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		20	2,964	1,928
直接事業費の主な内訳		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
項目	委員・調査員の謝金	19	192	865
	委員・調査員の旅費	1	22	108
	委託料	0	2,750	950
減価償却費【施設管理】(C)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		0	0	0
計(D)=B+C		20	2,964	1,928

(3)総コスト

総事業費(E)=A+D	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
	670	3,642	2,564

【4.収入】

収入内訳	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
国庫支出金	9	1,482	960
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	0	0	0
計(F)	9	1,482	960

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
	661	2,160	1,604

【6.コストバランス】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業受益者	観客数	観客数	観客数
受益者数	0	0	0
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	0	0	0

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))

活動指標名	山車・神輿実測図面の作成		単位	台
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	-	-	4	1
実績値	-	-	4	1

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)

成果指標名	観客数		単位	人
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	-	-	-	-
実績値	-	-	-	-
達成状況	—	—	—	

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 ①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) ③類似の事業はないか、あれば当該事業との統廃合はできるか ※【1】【2】から	高	岐阜まつりの歴史的・文化的な価値を明らかにすることで、将来的に市民共有の財産として、また歴史・観光資源として大きな役割を果たすことが期待できる。また、昨今の新型コロナウイルスの感染拡大により、地域伝統行事が伝承や継続の面で危機的な状況にある中で、現在の祭りの姿を記録することで、岐阜まつりが将来に渡って伝承されていくための土台作りにつながる。 地元自治体の推薦者も含めた委員会の指導の下、調査を実施しているが県文化財部局、専門家との連携が必要であり、本市の観光振興にも資するための事業として市が関与する必要がある。 類似事業はない。
効率性 ①費用対効果 ②他に効率的な方法はないか (広域・民間活用・市民協働など) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	将来的に歴史・観光資源として観光振興等の地域活性化に寄与するものであり、岐阜市域で住民によって営まれてきた土着文化を記録し、後世に伝承していく意味でも、効果は非常に大きい。 周辺住民の理解も含めて、事業推進にあたっては市民協働を意識し、必要に応じて地元住民に調査への協力をお願いする。また、民間活用も検討しながら効率的な手段を検討しつつ事業を推進していく。
有効性 ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か ※【2】【7】から	高	将来的に歴史・観光資源として観光振興等の地域活性化に貢献することが期待でき、岐阜市を代表する祭りの1つとして非常に大きな効果が見込める。
公平性 ・受益者及び受益者負担は適正か ※【2】【6】【7】から	高	当事業の成果は、本市の財産として市民が等しく享受するものである。
〔総合評価〕 ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持： 様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	現状維持	地元自治体や保存会との連携、関係法令や計画との整合性、庁内関係課等との調整を意識しながら事業を推進する。

事業評価シート(令和4年度事業評価用)

番号 0660080 _ 015

【1.基本情報】

事業名	岐阜祭事業補助金					
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部		担当課名	文化財保護課		
実施方法	補助等	補助等の種類	団体事業補助金	実施主体	岐阜祭実行委員会	
開始・終了年度	昭和	50	年度～	年度	根拠法令・関連計画	岐阜市補助金等交付規則

【2.事業概要】

目的 (何のためか)	観光客誘致、地域の活性化、観光資源の保全育成、市特有の観光資源等を広く宣伝することにより本市の観光の振興と発展を目的とする。					
内容 (手段・手法など)	市民の氏神、伊奈波神社・金神社をはじめとする市内一円の例祭で、祭りに伴う行事としてみこし、山車の巡行等様々な事業が行われるものに対して補助する。					
事業の 対象	何を	補助金				
	誰に	岐阜祭実行委員会				
	どのくらい	岐阜市観光事業補助金要綱に基づく補助としての令和4年度実績は、補助額500,000円、補助率10.9%				
令和4年度からの変更点 (継続事業の場合)	—					

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和2年度決算額		令和3年度決算額		令和4年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	33	1	32	1	32	1
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	33	1	32	1	32	1

(2)物にかかるコスト

		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
直接経費【直接事業費】(B)		0	0	500
直接事業費の主な内訳		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
項目	補助金	0	0	500
		0	0	0
		0	0	0
減価償却費【施設管理】(C)		0	0	0
計(D)=B+C		0	0	500

(3)総コスト

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
総事業費(E)=A+D	33	32	532

【4.収入】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
収入内訳	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	0	0	0
計(F)	0	0	0

【5.収支】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
市負担額一般財源(E-F)	33	32	532

【6.コストバランス】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業受益者	—	—	来場者数
受益者数	0	0	0
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	0	0	0

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))

活動指標名	補助金額		単位	千円
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	—	—	—	500
実績値	—	—	—	500

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)

成果指標名	山車・みこし数		単位	台
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	—	—	—	12
実績値	—	—	—	12
達成状況	—	—	○(達成)	

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 ①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) ③類似の事業はないか、あれば当該事業との統廃合はできるか ※【1】【2】から	高	郷土の歴史資産・文化財の保存、継承は本来必要なものであり、市民参加による保存、継承活動ということ、また、市内外に広く知られ集客力のある行事であることもあり、市民・地域のニーズも高い。 市内の歴史資産保存に関する取組みを市民参加で行っている活動であり、市が支援すべき事業である。 類似事業はない。
効率性 ①費用対効果 ②他に効率的な方法はないか(広域・民間活用・市民協働など) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	岐阜祭は市内外に広く知られ集客性も非常に高い行事である。最小限の負担で貴重な文化財の保存・継承活動を支援するものであり、有効である。 市民が主体的に活動しており、市民協働を有効に活用している。
有効性 ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か ※【2】【7】から	中	市民主体の活動そのものが、歴史資産の保存、継承、活用につながっているため、支援策として非常に有効である。 また、祭開催時には、各地から多くの来訪者があり、普及においても非常に有効である。
公平性 ・受益者及び受益者負担は適正か ※【2】【6】【7】から	中	歴史資産の保存・継承・活用等に資する事業であり、特定者に受益させるものではない。
〔総合評価〕 ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持：様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	現状維持	令和4年度までは岐阜市観光事業補助金であり、集客効果を評価の指標としていたが、令和5年度以降は、岐阜市文化財未来継承事業補助金として文化財の保存活用を主眼とする評価に切り替えることになる。なお、市内に278件ある文化財(令和元年時点)を含め、補助対象者を非公募としながら、当該団体をはじめ特定の者に継続的に補助することは、公平性の観点から疑問があると令和2年度の包括外部監査において指摘を受けた。 補助金交付の公正・公平を確保するため、令和5年度から、文化財に関する補助とそれ以外の歴史資産に関する補助に補助要綱を分けて整理し、団体補助から事業補助に切り替えて補助対象経費を厳正に審査することとした。また、岐阜市HP上に補助要綱を公開し広く応募を受け付ける予定。